

集会宣言

第五七回全国保育問題研究集会は、六月一日から三日間ここ兵庫で開催されました。全国から一三四〇名の仲間が集い、それぞれに深めた学びを持ち帰ります。

兵庫の地での開催は三回目となり、前回は一九九五年、震災の二年後でした。まだまだ困難な中で力強い開催でした。今回は熊本と共同制作された現地の劇で、「生きるとは何か」を問い、傷ついた心を奮い立たせ町をよみがえらせた強い意志が表現されました。「命を守り育む」仕事の責任と喜びを深く胸に刻む取り組みでした。

この集会では、一七の分科会で八八本もの保育実践の提案が今年も全国から持ち寄りられ、そこでは子どもへの向かい方が真剣に深められ、それぞれの柱で豊かな討議がされました。また、特別講座の内容には保育をめぐる課題が盛り込まれ、社会の見方、人としての権利を守ること等、兵庫ならではのものも含め、実りあるものとなりました。

誰もがいきいきと希望をもって安心して生きていける社会を作ることは私たちみんなの願いであり、その願いが託されているのが日本国憲法です。しかし、今の日本には格差と貧困が広がり、米軍基地や原発が、平和や、安全を脅かしています。政治家の虚偽発言は続き、今、ますます憲法を守り、真の民主主義を実現することが求められています。

子ども・子育て支援新制度施行でも未だ待機児は解消されず、規制緩和、企業の参入で子どもの基本的人権を守ることさえ危うい状況です。光も、風も感じられない保育室さえ認められようとしていきます。そして、今年改定された新しい保育の指針や要領には国旗や国歌が明示され、幼児期の終わりまでに育つ姿が求められる現場になることが懸念されます。各地で保育士不足はますます深刻化し、その中で長時間の研修が必要な上、保育士間に格差を生み矛盾を抱える処遇改善制度となっています。

しかし、私たちは真の民主主義を求めてきた保問研八〇年の歴史の中で、今、全国の素晴らしい実践や、様々な分野の講座に学びました。その学びと仲間を糧に、それぞれが歩みを進めましょう。互いの話をしっかりと聞きあい、話し合いを丁寧に積み上げましょう。平和で一人ひとりの子どもたちが本当に大切にされるよう、大人も仲間と生き生きと仕事に取り組めるよう、「人材」でない「豊かな人間」を育てることに誇りを持ち、全国各地で実践を、学びを、積み上げましょう。

今集会のサブテーマに次のように付け加えてこれからも大切にしていきたいと思えます。

「友だちのなかで育ちあい、子ども一人ひとりがたいせつにされる、保育実践について今後も学びを深めましょう」「みんながしあわせに働き続けられる職場づくりのために、保育に携わるおとな同士が今以上に語り合い合いましょう」「貧困と格差のない、社会づくりのために、世代を超えてこれからも手をつなぎましょう」

「保問研八〇数年の歴史に学び、発展・創造をして未来につなげましょう」

そして来年は、震災直後にもかかわらず集会開催を決意してくれた熊本の地に集い、全国からまたたくさんの実践を持ち寄り、子どもを語り合い学び合えることを願って集会宣言とします。

二〇一八年 六月 三日

第五七回全国保育問題研究集会